

「市老連だより」(令和2年11月30日発行分) 寄稿文原稿

令和2年10月29日

倉吉市老連広報委員会・研修委員会委員

上井地区福庭福寿クラブ副会長

土井承夫(どいよしお)

<本文原稿>

題名：「福庭福寿クラブ」ってどんな老人会？

まずは、筆者の自己紹介です。私は昭和30年生まれの現在65歳、5年前に60歳になったからと強引に引っ張り込まれたのがこの福庭老人会「福寿クラブ」です。要は若いから少しはパソコンをいじるだろうとほとんど便利屋状態で庶務・会計を任せられ、その慰(なぐさ)みにと分不相応の「副会長」なる称号を与えられて「何か文句あるか？」と押し込まれてしまったというのが本当の所です。福寿クラブは上井地区5団体の中で人数最大ですが、必ずしも「大きい事はいい事だ」ばかりではなく、それなりに苦楽を共にしながら構成員50名(男30, 女20)が「“オセ”同志の結束」を以て進んで参りました。

現在の会長は倉吉消防署出身の土井勉(どいつとむ)さん(70歳)であり、民間出身副会長の私と合わせると「どい・どい」コンビとなって紛らわしいので会員からは、会長は「会長さん」または「つとむさん」と呼ばれ、福庭公民館長も拝命している副会長の私は「ヨシオ君」または特に女性会員を中心に、なやましくも「館長さ〜ん！」と呼ばれています。また私の幼少期をご存じの85歳以上の女性からは「どいのヨッチャ〜ン！」とまるで自分の子どもを呼ぶように言われていますが、それはそれで決して悪い気分は致しておりません。

扱て、本論の最近の活動状況ですが先月10月20日に「社会奉仕作業」として恒例の福庭公民館の草取り及び清掃を行いました。本来はその作業の後の公民館での「懇親慰労会」事実上の「飲み会」が主目的ではありませんでしたが、コロナのため中止となり、副産物としてこの奉仕作業に対してでる助成金の獲得に力が入りました。当クラブも例外ではなく台所は「火の車」であり、僅かなお金でもありがたいのです。幸い戦争体験のある80代、90代の年配者も多くおられ、「儉約は美德」「鬼畜米英」「勝つまでは欲しがりません」などのフレーズが抵抗なく共有できて前述の「オセの結束」は公民館運営とは一線を隔す(いっせんをかくす)老人会ならではのものとなりました。(おわり)

<本原稿に添付する写真について>

下に掲載しておりますのが、昨年 2019 年 7 月 9 日に福寿クラブで日帰り旅行した時の写真です。場所は鳥取砂丘「砂の美術館」正門前で、参加人数は全会員の約半分の 20 名弱（例年通り）です。この年も倉吉市社会福祉協議会殿の「ふくしバス」を利用させて頂きました。ありがとうございました。

(福庭・福寿クラブ：土井承夫)



<本文に写真を挿入される場合は、この写真を使って頂ければ幸甚です>